

教育目標

高度な専門知識と技術並びに幅広い視野と豊かな人間性をもった明日の和歌山県の農業を担う人材の育成

今年度の重点目標

- 1 学生の確保
- 2 教育活動の充実・強化
- 3 進路支援の強化
- 4 情報発信の充実

評価基準

- 【評価区分・5段階】
 5:当初目標を十分達成した(101%以上)
 4:当初目標をほぼ達成した(81~100%)
 3:当初目標を概ね達成した(61~80%)
 2:当初目標の半分程度達成した(41~60%)
 1:当初目標をほとんど達成できなかった(40%以下)

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取組		内部評価	次年度以降の課題と取組	外部評価	外部評価者コメント			
			計画	実績							
1 学生の確保	<p>○平成以降入学者の定員割れが続いている</p> <p>○直近5年は年平均16.2名と低迷(受験者数22名)</p> <p>定員40名 ↓ 実績:16.2名(R1~5平均)</p> <p>出身高校の属性(H31~R5) 農業38%、総合16%、普通32%、商工業10%</p> <p>○県外からの入学生は増加直近5年は毎年県外からの学生が入学年平均4.4名。</p> <p>(県内外の属性(H30~R4)) 県内74%、県外26%</p> <p>○アグリビジネス学科(H29新設)の入学者も低迷</p> <p>定員10名 ↓ R5年度0名(H29:8名、H30:5名、R1:0名、R2:4名、R3:2名、R4:3名)</p>	<p>【令和6年度入学生:17名確保】 園芸学科:13名 アグリビジネス学科:4名</p> <p>○高校へのアプローチ ・学校訪問 ・資料送付 ・高校職員の関係会議でPR</p>	<p>○学校紹介と学生募集活動の展開 ・受験者数の確保 20名以上(入学生/受験生=約9割)</p> <p>・教育委員会との連携による高校訪問(事前に県立学校教育課長から県内全高校へ協力依頼文を发出のうえ、集中訪問を実施) ↓ 学校訪問巡回数 4巡 6月、9月、11月、1月 延べ110校(県内95校 県外15校)</p> <p>学校パンフレット、農学部紹介チラシ、オープンキャンパス案内を持参 園芸学科、アグリビジネス学科それぞれの特徴を巡回説明</p> <p>・募集要項、学校案内等の送付(4月) 募集要項 学校案内 県内 50校 211部 255部 県外 300校 274部 338部 計 485部 593部</p> <p>・教育関係首長会への出席、農大概要説明(校長、副校長) 教頭会議 5月10日 校長説明 募集要項 110部を配布 進路指導部長会議 5月12日 教授説明 70部を配布 進路指導研究会等 7月6日 副校長説明</p> <p>《評価》 ・学校紹介や学生募集活動を積極的に行い、令和6年度入学生を16名(園芸学科:11名 アグリビジネス学科:5名)確保できた ・高校へのアプローチは当初の計画どおりに実施できた(学校訪問:県内外延べ106校)</p>	<p>受験者数の確保 18名(入学生/受験生=約9割)</p> <p>学校訪問巡回数 4巡 1巡 5月31日、6月2日、6日、12日、20日、22日、23日、28日 2巡 8月31日、9月1日、7日、11日、13日、14日、15日 3巡 10月5日、19日、11月6日、7日 4巡 1月31日、2月1日 延べ106校(県内87校 県外19校)</p> <p>計画どおり説明を実施</p> <p>計画どおりに実施</p> <p>教頭会議 5月10日 校長説明 110部を配布 進路指導部長会議 5月12日 教授説明 90部を配布 進路指導研究会等 7月6日 副校長説明 50部を配布</p>	3	<p>・非農家出身の受験生は増加傾向で就職に関心が高い ・本校の多彩な就職先(県職員Ⅲ種の受験可能となったこと)や高い就職率を強調 ・県内外の高校に引き続き巡回説明で受験者数確保</p>	4	<p>高校巡回を複数回行うなど学生募集に向けての活動は評価できる。 アグリビジネス学科への入学生も次年度は5名で引き続き外部へのアピールを続けてほしい。</p>			
			<p>○チラシ配布やHPなどにより事前告知を強化</p> <p>・7、9に3回開催(7/9(土) 7/30(日) 9/9(土))</p> <p>・3月に1回実施</p> <p>・参加者に「入試想定問題」を配布するとともに、職員からスマート農業、GAP演習の取組みを、学生から農大生活等を紹介</p> <p>《評価》 ・7~9月に参加した28名(R4:21名)のうち、14名(約5割)が受験 ・参加者人数の制限をなくしたことや開催日を全て土日に変更したことにより、参加者が増加した</p>	<p>計画どおりに実施</p> <p>3月17日実施予定</p> <p>計画どおりに実施</p>	3				<p>・参加者の利便性を高める オンラインによる申込みを開始する</p>	3	<p>オープンキャンパス参加生徒の受験率は高く、学生確保の成果につながっている。 YouTubeでLive配信してはどうか。</p>
			<p>○農業系高校との連携強化と出前授業の実施</p> <p>○県内農業系4高校との連携強化 ・「高大連携プロジェクト」(R3新規事業)の推進 農業系4高校(紀北農芸、有田中央、南部、熊野)と農林大学校が専門的な授業等で連携することにより、5年一貫の教育システムを構築する事業 農業系4校において農大カリキュラム「概論」「農業経営」に値するカリキュラムを強化→評定5の生徒(特待生)は上記2科目免除を検討中(R7~入学生を想定)</p> <p>・高校からの依頼に基づき、リモート発表を開催 プロジェクト研究を発表紹介(本校発表会 12/15) 卒業論文発表会(2/14)</p> <p>○出前授業の実施 ・本校職員が高校からの依頼内容に基づき高校での授業を実施 「和歌山県の農業」 「農業の魅力と農林大学校」 「就農支援制度」等</p> <p>《評価》 ・農業系高校職員との交流等により連携強化を図った</p>	<p>【6月・10月】 農業高等学校・農業研究機関交流会において、当校も出席し、県内農業系高等学校教職員、農業研究機関職員等と交流を行った。 【6月・1月】 わかやま農業教育推進協議会に出席し、農業関連への進路決定につながる農業教育の在り方について協議を行った。 【6~1月】 令和7年度入学に向け、特別推薦入試にかかる受験資格や試験の時期等、学校教育課、経営支援課と協議を行い、1/19に知事の承認を得た。</p> <p>・要望なしのため未実施</p> <p>1校で実施 2月15日:熊野高校 1年生 156名 (南部高校から依頼があったが、日程が合わず未実施)</p>	3						

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取組		内部評価	次年度以降の課題と取組	外部評価	外部評価者コメント
			計画	実績				
		○アグリビジネス学科のPR	○農学部パンフレット、アグリビジネス学科PR資料配布説明 アグリビジネス学科生の減少が続いていることから本学科のカリキュラムをわかりやすく説明し、農業経営が学べることを知ってもらう	・県内外の学校訪問等で各学科の違いや強みを進路指導教諭に説明【再掲】 ・教頭会 5月10日校長説明 学校案内等資料 110部を配布 進路指導部長会 5月12日教授説明 学校案内等資料 90部を配布 進路指導研究会 7月6日副校長説明 学校案内等資料 50部を配布	3	・引き続き、学校訪問等でアグリビジネス学科カリキュラムの特徴を丁寧に説明	3	次年度入学生のアグリビジネス学科生が5名となったことを踏まえ、引き続きアピールしてほしい。
2 教育活動の充実強化	○スマート農業の振興など農業を取り巻く情勢は刻々と変化 ○一方、本校学生の属性も多様化 ・学生の属性 (R1～R5) 専業農家 20% 兼業農家 20% 非農家 60% (H26～H30) 専業農家 26% 兼業農家 29% 非農家 45% ・出身高校 (R1～R5) 農業47%、総合13%、普通26%、商工業6%	○時代の流れに即した授業の実践 ・授業期間の組み換え	【授業期間の組換え】 ○スマート農業機械演習《1年 前期:12時限、後期:8時間》 スマート農機演習を学生の操作技術等を早期に習得させるため、前期に集中して実施する。 →専攻実習で農業散布ドローン、リモコン草刈機、スピードスプレヤー等の活用を高めることで、実践力を強化する	・1年生を3班に分けて、4月、5月、12月、1月に演習を実施	3	・スマート農業機械演習は、引き続き、1年生時で演習を実施 1年次:科目「GAP」でGAPの基礎を学ぶ 15時間 (1回90分×7回)+試験 2年次:「GAP演習」を通じて認証取得に向けた実践教育を実施 審査に向けた演習 27時間 (1回180分×9回)	3	スマート農機の取組は学生の興味を引くという点では評価できる。 GAP認証については既に4回にわたり認証を取得している。 これからは見据えてJクレジットや「みどりの食料システム戦略」、減農薬・減化学肥料栽培への取組を始めてはどうか。
			○GAP(農業生産工程管理)の実践教育《2年 48時限》 国庫事業を活用し、令和2年度「カキ」、3年度「トマト」のグローバルGAPの認証継続 GAP演習を通じて、認証取得に向けた実践教育を実施する	計画どおり実施				
			○起業演習《2年アグリビジネス学科 45時限》 店舗運営に限らず、起業や組織運営等に学習領域を広げた授業を実施	・2年生3名に対し、起業の実践的な学習を実施 株式会社設立手続き、外部講師による演習				
			《評価》 ・スマート農業機械の構造と取扱い等の習得 ・カキとトマトのグローバルGAP認証を継続取得(11月3日付け) ・会社設立の手続きを学生自らが取組むことで、経営者感覚の向上 会社設立:令和5年7月24日					
○学生間に基礎学力の開きがある	○資格取得率向上を目指した取組 ・資格取得率 大型特殊自動車(農耕用):100% 園芸技術(2年):80% 農業技術検定2級(2年):30% 農業簿記検定3級(2年):70% 危険物(1年):40% 毒劇物(1年):30% 狩猟免許【わな猟】(2年):90%	○園芸技術、農業技術検定 自習時間の新設(全学生)《1・2年 各16時限》 資格試験直前の集中講義を編成(「資格取得対策」の新設) 模擬試験の実施(2回)	計画どおり実施	2	・資格試験直前の集中講座を引き続き実施 ・園芸技術員資格試験と農業技術検定試験の前は、「資格取得対策」と「園芸技術」による集中講義を実施 ・他の資格試験は引き続き「資格取得対策」で対応	2	危険物や毒劇物の資格は卒業してからでも有用だと思うのでは非取得してもらえれば。 自己評価は2でも学校側はしっかり教育している。	
			○農業簿記検定 《2年 15時限》→《2年 21時限》 模擬試験の実施(2回)					同上
			○危険物・毒劇物 外部講師を招聘(R1～) 1年次不合格者に対して2年次の再チャレンジ(R2～) 職員による補習授業の実施(R2～) 過去問題を徹底解説し、個別指導の強化で対応					同上
			《評価》 ・R5資格取得率(R4) 大型特殊自動車(農耕用):100%(100%)、園芸技術:100%(88%)、農業技術検定2級:21%(23%)、農業簿記3級:50%(57%)、危険物:0%(7%)、毒劇物:0%(0%)、狩猟免許(わな猟):79%(92%) ・園芸技術は合格率が向上、農業技術検定、農業簿記及び危険物は昨年度より合格率低下、毒劇物は昨年に引き続き合格者0であり、これらについてR6は過去問題を徹底解説し個別指導の徹底を図る必要がある					

令和5年度 和歌山県農林大学校農学部 学校評価シート

教育目標

高度な専門知識と技術並びに幅広い視野と豊かな人間性をもった明日の和歌山県の農業を担う人材の育成

今年度の重点目標

- 1 学生の確保
- 2 教育活動の充実・強化
- 3 進路支援の強化
- 4 情報発信の充実

評価基準

- 【評価区分・5段階】
- 5:当初目標を十分達成した(101%以上)
 - 4:当初目標をほぼ達成した(81~100%)
 - 3:当初目標を概ね達成した(61~80%)
 - 2:当初目標の半分程度達成した(41~60)
 - 1:当初目標をほとんど達成できなかった(40%以下)

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取組		内部評価	次年度以降の課題と取組	外部評価	外部評価者コメント
			計画	実績				
		○魅力ある教育の実践(その1) ・スマート農業関連技術の導入	○ICT機器をミニトマト、メロン、バラロックウールハウスへ設置(R1) ○制御ノード設置によりハウス環境制御装置の一括管理が可(R2) ○外気象ノード設置により、天候に順応した自動環境制御を実現(R2) ○自動環境制御が可能となった3ハウスをケーブル接続し、クラウド連携によるスマートフォンでの一括管理を実現(R2) ○イチゴ高設栽培ハウスへ環境制御装置を導入(R3) ○自動環境制御を活用した「ミニトマト」増収栽培技術の習得をプロジェクト学習で、「ガーベラ」の高品質生産技術の習得を専攻実習を通じて実践 (ミニトマトR3～、ガーベラR4～) ○プロジェクト学習として、蓄積された施設内環境の測定データを活用し、収穫予想された日数と実際の開花～収穫までの日数の比較を行う	実施済み	3	・スマート農業関連技術を導入することによる効果について学生に理解させる手法および職員の知識・技術向上 ・ドローン操作技能の習得支援	3	学生の興味を引くという点では引き続き取組してもらえれば、スマート農業に関する教育を充実してほしい。 コンピューター、機器のオペレーションは若者にとって魅力的である。
		○魅力ある教育の実践(その2) ・GAPの取組を加速化	○GAP演習の授業導入 令和4年度までは国庫事業を活用し、コンサルティング会社から外部講師を招聘しグローバルGAP認証取得に必要な知識、技術を習得させていたが、今年度(令和5年)から農大職員による講義・演習を行う。 ○グローバルGAP認証継続のための職員指導体制の強化 ・外部講師依存度を減少(12回→9回)させ、職員の指導スキルを向上 ↓ ・職員が日常的に指導できる体制を整備 ↓ ・学生がGAP実践の知識や技術を容易に習得	計画どおりに実施	3	・職員の知識と指導スキルを向上させ、学生による継続認証の取得を図る ・カキのネット販売の拡大 ・輸出に向けた取組の検討	4	販売実績が増える工夫をして、もっと学生が主体的に取り組めるようにした方が学習効果が上がるのではないかと。グローバルG.A.P.へのノウハウが確立している。さらなる充実を期待する。 本学のウリとして広く広報すべきである。
		○魅力ある教育の実践(その3) ・模擬会社の設立、学生運営	○「起業演習」で起業から組織運営についての知識を習得 ○模擬会社を合同会社形式で社名「わかやま農大学生会社」として6月の設立を目指す 学生が会社員となり、代表生が役員に就任、生産から仕入れ、販売までの運営を自ら行う	・2年生14名が定款作成や法人設立の手続きについて学習(7月5日) ・「和農市」のリニューアルとして、オープニングセレモニーを開催(4月20日)(プレスリリース、新聞、テレビ) ・「わかやま農大学生会社」の設立総会を開催(7月24日) ・11月11日、12日「大収穫祭 in 九度山」出展	4	・和農市、農林大祭等校内での農産物販売 ・「出張和農市」として地域のイベント等へ参加を拡充 ・SNSを活用した情報発信	4	経費や売上計算についても学生自身が考えて会社運営できるようにした方が学習効果が向上するのでは。
			《評価》 ・学生自らの取り組みによって認証を取得し、学生全員をGAP等を実践できる人材に育成した ・6名の職員が講義や演習12回の学生指導を行い、職員の指導力強化を図った ・農林大学校のGAPレベル(柿、トマト)をグローバルGAPまで高め継続している ・JAの協力を得ながらインターネット販売を実施することができた。 ・出荷先の選果場が輸出に対応できなかった	○果樹・野菜・花き全コースでGAP農業の取組みを強化 ・グローバルGAP.(カキ、トマト)【継続】 ・MPS-ABC認証取得(花き)【継続】	認証取得の状況【再掲】 ・グローバルGAP(カキ、トマト) 11月3日取得 ・MPS-ABC認証取得(花き) R4年1月17日取得(継続2年目)	・職員6名が12回の講義、演習をすべて行い、GAP内容の理解と指導スキルを向上 ・審査終了後も各コース長を中心に指導を継続 ・学生の8割以上がGAPを理解している(資料9参照)		
			○GAP認証品の販路拡大 ・カキの輸出版売 ・カキの国内販売(店舗でのテスト販売)	輸出実績なし ・カキのネット販売(JAタウン)→10月24日～11月2日 贈答用 3ケース(11～12玉/ケース) 3,400円/ケース 家庭用 2ケース(18玉/ケース) 3,000円/ケース ・カキの国内販売(やっちゃん広場)→11月3日～6日 (1袋1.2kg×25袋 320円/袋)				

本年度の重点目標	現状と課題	具体的方策・評価指標等	本年度の取組		内部評価	次年度以降の課題と取組	外部評価	外部評価者コメント	
			計画	実績					
3 進路支援の強化	<p>○非農家出身の学生が増え就職に関する指導や就職先の開拓などきめ細やかな対応が必要 加えて学生の多様化により卒業後の進路や学校生活に不安を感じる者が現れる傾向がある。</p> <p>○就職試験の時期が早まっていることから、学生の就職活動は1年生後半には準備を始める必要がある。</p> <p>○1年生における就業意識は未だ低く、早期から積極的に活動する学生は一部である。</p> <p>○卒業時の進路確定率 98% (H30～R4)</p>	<p>○将来設計能力の養成 ・授業科目の変更 ・インターンシップ研修時期の改善</p> <p>○ハローワークとの連携強化</p> <p>○個別面談による進路指導 ○求職情報の常時提供</p> <p>○学校と専門カウンセラー、保護者3者による伴走型支援の実施</p>	<p>○進路支援強化に向けた授業の再編</p> <p>・キャリアデザイン授業(1年生)の導入 学生が主体的に、人生と職業、キャリアプランを思索するため専門外部講師と職員連携による授業を実施</p> <p>・上記授業の中で、就農予定者には卒業後の営農モデルを設計させ、経営展開の計画性を高める</p> <p>《評価》 ・進路選択に向けた意識の醸成 ・ハローワークと連携し就職支援に関する講義を行うことで就職活動のスキルアップにつながった</p>	<p>・1年生を対象に進路選択の動機づけとして、ハローワーク(HW)と連携した就職支援に関する講義を12月まで5回実施 9/25 職業理解と働く意義(HW橋本) 10/13 厚生労働省委託事業による就職ガイダンス 11/10 就活について(HW橋本) 12/11 就活に向けたスーツの着こなし(洋服の青山) 12/22 ビジネスマナー、面接対策(HW橋本)</p> <p>・インターネット、情報リテラシー、消費者教育の講義を実施</p> <p>・1年生次では就農、就職の進路が定まらなかったことから、営農モデル設計は未実施。</p>	3	引き続き実施	3	以前に比べれば今の職員は頑張っている。 高大連携、海外研修、4年制大学への編入と学生の選択肢が増えているのは良いことだと思う。	
			<p>○ハローワーク(HW)からの講師派遣</p> <p>・求人票から見る就労条件のポイント ・就職面談に有利なエントリーシートの作成 ・HW職員による模擬面接の実施</p> <p>9/ 25 職業理解と働く意義(HW橋本) 11/10 就活について(HW橋本) 12/11 ビジネスマナー、面接対策(HW橋本)</p>	<p>○個別面談の実施(進路指導職員、担任との2者面談)</p> <p>・保護者との連携を密に学生の学力向上と進路意識の醸成を双方から指導支援する ・新規参入希望生へは「新規就農受入協議会」との連携を密に図り、県内の就農定着を支援する</p> <p>【1年生】 5～6月 進路状況調査・2者面談 9月 3者面談 1月 HW講師による模擬面接</p> <p>【2年生】 4月:就職活動動向調査、二者面談 7月 :非内定者への就職支援 随時:進路指導、職員による模擬面接</p> <p>・5月にアンケート調査をおこない、悩みがちな学生には、保護者とカウンセラーと連携しながら、早期サポートをおこなう</p> <p>《評価》 ・2年生14名全員が進路確定 ・ハローワーク、進路指導職員、担任による模擬面接を行うことで就職活動のスキルアップにつながった</p>	<p>新規参入希望者なしのため未実施</p> <p>【1年生】 進路状況調査・2者面談 5月11日・12日、9月5日・9月6日 3者面談:10月13日～20日 HW講師による模擬面接:12月22日</p> <p>【2年生】 ・就職活動動向調査、2者面談 4月14日、4月下旬、5月、6月、9月、10月、11月に実施 ・就職の決まらない学生に随時面談を実施 ・就職面接の予定している学生に随時模擬面接を実施</p> <p>・面接において悩みがちな学生がいなかったことから5月のアンケート調査は実施せず、その後の面接において十分な時間を確保して相談に応じることとした</p>	3	・面接や積極的な情報提供など進路決定に向けたサポートを継続実施	3	
			<p>○本校1年生を対象に、紀北農芸高校との共同開催として企画 JA、農業法人、農業関連企業等を招請し、学生の進路決定の一助とする</p> <p>・3月7日に実施(参加企業 15社) 農林大学校学生11名、紀北農芸高校生徒54名参加</p>		<p>《評価》 ・農業関係企業15社からの説明を聞くことができ、進路を考えるための一助となった</p>	3	引き続き実施	3	学校側としては、キャリアデザインの講義、紀北農芸高等学校との就職ガイダンスの開催、保護者との密な連携、情報収集など様々な工夫を凝らし、就職対策を行っている。
			<p>○就職ガイダンスの開催 対象:1年生 時期:3月</p> <p>○ガイダンスを通じた早期就職活動の実施</p>		<p>○ブログ以外のツールによる情報を発信</p> <p>・県ホームページ更新30回</p> <p>・Twitterによる情報発信 30回</p> <p>・Instagramによる情報発信 30回</p> <p>《評価》 Instagramによる発信を始め、1回の投稿で80回以上のアクセスを得ることができ、本校の魅力をPRできた</p>	<p>・県ホームページ更新30回(入学試験、和農市、オープンキャンパス等)</p> <p>・Twitterによる情報発信は2回</p> <p>・7月25日から学生の活動を中心に41回の投稿を行った。</p>	3	引き続き実施	3
4 情報発信の充実	<p>○農林大学校が一般に十分認識されていない</p> <p>○ホームぺージ・SNSによる農林大学校の魅力発信</p> <p>○マスメディア等を通じた情報発信</p> <p>○地域における効果的な情報発信関係機関(市町、JAなど)や地元民間企業(JR、スーパー等)を通じた和農林大情報の発信</p>	<p>○プレスリリース回数 12回</p> <p>○広報誌 10回</p> <p>《評価》 ・メディアを通じた情報発信を強化。</p>	<p>・プレスリリース回数 14回 (学生・研修生募集、一般入試、オープンキャンパス等)</p> <p>・テレビ、ラジオ 26回(R4年12回)、県関係誌 20回(R4年6回)、県公式SNS 12回(R4年12回)</p> <p>・広報誌 6回(県民の友3、1JA、2市町)</p>	3	引き続き実施	3			
		<p>○市町(経営支援課協力)、JA等関係機関に対して広報誌やホームページへの記事掲載、ポスター掲示を要請 26カ所(市町18、JA8)</p> <p>○民間企業へのポスター掲示を要請 50カ所</p> <p>《評価》 ・市町やJA等関係機関に対して広報誌やホームページへの記事掲載要請回数は計画を上回るなど、情報発信の強化を図った ・プロのアニメ作家に依頼し、キャラクターを設定した。(古賀慶 氏)</p>	<p>・47カ所(市町村延べ30、JA延べ11)</p> <p>・3月7日に農業関連企業15社に掲示要請</p>	3	引き続き実施	3			